



三勝
半七
南柯後
前
三

~13
3909
3



13
8909
3

毛白村
お丹白

新金田
昭平丁巳年
六月二日
小田壽正代
長田友成
代官贈

三全傳南柯夢卷之三



臥房の胡越

東都



馬琴編次



光陰矢の如く。又梭の如く。秋去春来たつ。蟻松典膳が女児園花の既よ
十五才をどめたりける。父の典膳の豫より赤根羊六が一子羊七を女児月よす
るに準備のをりく。ま君統井順昭をりく。彼親子がを吹奉る。
ある日又羊七の羊六五條の村まを兼つとら。夕年露をりも松
の児子羊七の文武の才藝人よ絶たり。僕日未との奉
召使れてさるるべりの秋夫俊徳を明し能
君のさるるよあり。さるれども長流松横つ。渡すのさるる
賢人を薦る思



と。尊慮よりさうさうりや。と言諾を竭す。いづれおぼへ順昭れを諾
ひく。すまのらち六は五條の縣守と兼じ。新しき羊七を名きて嫡子と
の進習をも召使れり。典儀見賤員の使法さうり。彼親子を別す。其
ども。羊七がむぎや。怜愍す。忠孝拔群あり。その違ひ。そのるを
老臣もそれがかよ。委ま君もそれと對し。容を改むとまうり。さうり
羊七のつれもさう。近臣の上よす。職祿忽比父は超たり。続井の家業
まうり。中。文武の道よむを委ね。忠信を三つ。その。尊倉三郎。夫友春
と赤根羊七との。なえ。肩をけり。さうり。今。羊七の。今。羊七の。今。羊七の。
まうり。その年紀をさう。論む。さう。尊倉も。縁を主君。願ひあり。明春園花を嫁らして。秦晋の好を締んと。作

媒妁の男をさう。送よ。用意をさう。い。その。羊六の。さう。い。その。
ち。招死の。蟻松氏の。親子。恩人あり。既よ。その。陰を蒙る。
久し。猶彼人の吹峰よ。それ。山見さ。打果る。それ。秦
也。此度最愛の女兒を。自身妻。んと。今。今日。殊。ふ
言。日。双。方の。願。書を。上。る。と。の。さ。や。え。さ。う。と。う。ひ。ね。性。ひ
あ。う。の。羊。七。の。顔。を。う。ら。瞻。望。仰。ふ。ゆ。と。も。某。じ。う。
母の遺言よ。と。さんと。抵。日。縁。を。結。び。う。と。彼。不。幸。み。て。猛。獸。小。御。去
ら。る。さ。う。り。と。い。ふ。も。今。よ。信。る。死。と。や。さ。う。い。ふ。も。彼。女。子。志。あ。く。と。世
わ。ら。び。母。の。遺。言。よ。信。る。の。と。う。い。ふ。も。彼。女。對。して。不。義。あり。不。信。い。田。か。よ。二十
み。さ。く。室。あ。り。と。い。ふ。か。妻。を。取。女。る。の。い。ふ。も。迷。う。い。ふ。も。い。ひ。は。ら。じ。と。後。か
回。答。い。ふ。も。社。と。い。ひ。も。果。は。ら。う。よ。羊。六。忠。比。氣。を。変。え。さ。う。い。ふ。も。

とひてうん。可くとうら笑ひの身がらふ不埋あり似たれど。その心近遠
よ于ておさんぐらふの成さうあはれ。その誓縁を結ぶ。不義あり。のうよん。彼
荒熊よとれ。その屍を索ゆ。どつらふも。や八九年音耗。う。枯なる。米よ
花の并とも。それが存令と帰を来ん日。ありとも。あやえ。ど。る。を。供。初。の
義理よ西鞆。れ。一女子の。る。よ。子。孫。の。後。榮。と。あり。の。ど。の。思。ひ。且。上。世。の。人
究く命長し。そのおえよ二十。う。と。娶るとも。遂う。ん。降。り。の。世。の。あ。う。ど。
人生五十年。七十の稀。う。や。う。り。子。を。生。じ。ふ。れ。が。父。母。衰。老。し。る。その。子。を
教。る。よ。む。わ。り。ど。の。身。を。孝。向。さ。れ。が。和。漢。の。故。實。の。を。ま。ぬ。べ。し。う。れ。れ。ど。も。と
の。枚。子。定。規。あり。う。が。子。の。う。れ。と。め。つ。ら。ん。や。あ。ん。憎。し。く。の。誓。縁。を。結
ば。ん。や。ど。う。う。思。慮。し。て。悲。い。と。り。ぬ。い。と。り。ぬ。よ。羊。七。の。月。以。を。低。降
の。向。よ。も。を。さ。う。れ。黙。然。と。して。居。ら。し。が。因。と。す。の。の。や。の。思。ひ。の。う。ら。

か。ん。と。て。ゆ。と。信義の係ると。う。う。う。も。ま。ま。ま。公。直。よ。中。と。と。一。推。家
よ。の。う。し。う。の。の。恥。あり。光。う。一。の。宿。老。の。誓。と。あり。う。肩。を。従。身。と。ん。と
嗚。呼。う。う。人の貧富の天あり命。う。う。や。生涯。薪。を。煮。て。世。を。う。う。の。も。公
清。く。朱。買。臣。も。羞。へ。う。死。灰。の。人。よ。愛。せ。ら。れ。ん。の。愛。ら。れ。る。よ。あ。う。銅
臭。を。羨。し。好。を。締。の。禍。の。端。あり。う。う。う。今。を。う。初。を。あ。う。の。あ。を。羊。六。の
も。あ。む。太。よ。赤。う。声。を。あり。う。や。を。れ。羊。七。の。世。買。ら。と。う。う。う。か。上。前。母。の
遺。言。の。を。重。し。て。父。を。否。し。う。う。う。の。義。理。よ。西。鞆。と。す。親。よ。愛。を。ま。い。る。
何。の。書。よ。記。し。て。る。ある。う。れ。一。且。蟻。松。氏。よ。約。諾。し。う。の。誓。縁。と。す。う。う。う。
今。勿。忘。れ。を。破。く。の。彼。人。豈。だ。よ。止。ん。や。う。れ。と。と。大。なる。禍。の。端。と。す。う。う。う。
彼。人。よ。憎。む。と。う。が。親。子。の。活。ぐ。じ。身。非。よ。ら。う。と。う。れ。を。死。て。面。を。振。り
又。蒼。く。あり。猛。よ。刀。を。引。提。つ。外。面。よ。き。り。あ。ん。と。と。う。羊。七。忙。し。く。誓。を

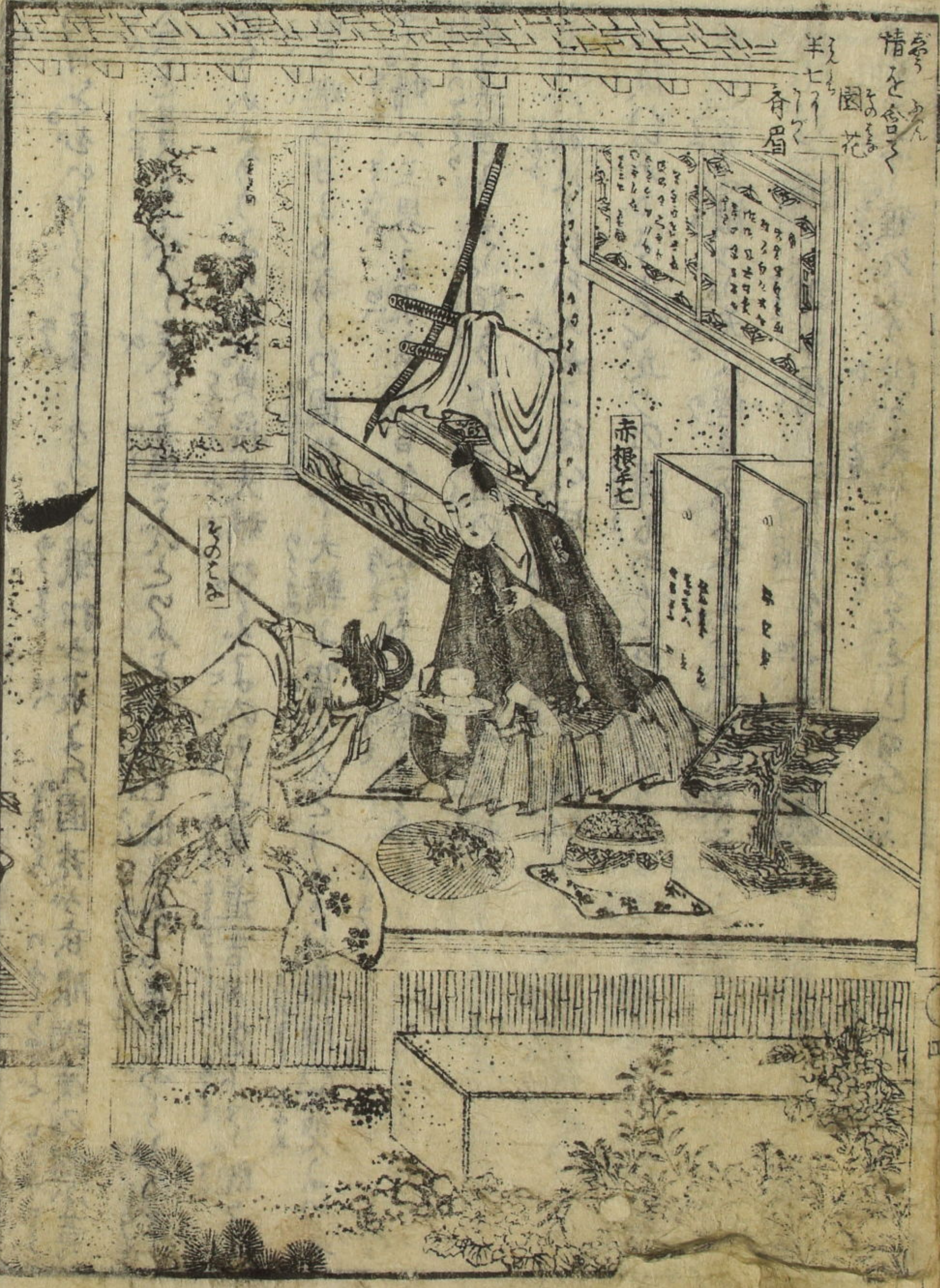
伸して袴の裾を引とめ。ひん憤の甚くはち家の方をあらはすとあれは。侍
頭あふまあるべ。二とび諫めく聽されは。啼哭して従つといふ奉文あり。此の
此意の儘までありあん固辞ゆぐ。固辞ゆぐと云うこともせず六せ。い
気まをわげ。だもたさうが仔細なるが。其の幸福されよ。いふは。
汝日未の怜物よ似とあむうの。みよひ惑ひの。年弱死故も。ここのは。
いよ誓姻整ひさる。夫婦睦して。男が始よ愛せられ。其の階梯を踏
み。其といふよ。半七の思て仰ら。けぬひの。い。い。と。こ。ろ。と。應。へ。ぬ。か。
大に故く。か。こ。この日。願書をとり。半七か。誓日縁のみとせえお。げ。程。よ。
その年の終て。い。双。方。故。く。主君の許を稟。誓姻に。正月の中旬と。定
め。く。こ。こ。聘。礼。を。と。り。け。ぬ。さ。る。め。く。よ。半。七。の。屋。棟。を。替。更。さ。す。婿。を
奉。主。ら。し。帝。薦。の。面。以。新。よ。さ。し。紙。意。を。貼。り。と。す。る。よ。い。と。短。促。な。り。

の目を。か。い。と。く。暮。一。く。又。蟻。ね。が。あ。ら。う。園。花。が。衣。服。調。度。の。儲。小。黄
金を。費。し。だ。び。く。美。を。盡。さ。ぶ。と。い。ふ。と。あ。り。そ。は。は。ま。も。果。て。お。く。ま。の。年
の。と。め。ま。あ。り。よ。り。ね。ば。典。俗。夫。婦。に。ま。か。子。の。か。よ。黄。道。吉。日。を。し。と。す。既。く
誓。姻。の。日。よ。も。あ。り。ね。園。花。が。大。轎。に。駕。ら。んと。す。る。と。い。敷。浪。の。女。児。よ。り。か
す。婦。に。三。界。よ。か。ま。り。百。年。の。苦。も。又。樂。も。と。し。人。よ。ら。う。す。る。年。あ。ら。ん。ば。
只。業。順。も。す。始。ま。れ。を。恒。の。こ。ろ。と。し。よ。し。物。の。本。え。も。あ。り。の。ひ。つ。ん。
され。ば。知。れ。と。い。の。父。母。よ。従。ひ。成。長。く。夫。よ。従。ひ。老。く。け。は。よ。従。ひ。ま。ら。し。の。
三。従。の。ら。ち。も。ま。ら。し。五。ツ。の。障。も。あ。り。と。い。ひ。ひ。く。の。女。児。と。成。度。
殿。を。ま。よ。被。つ。夫。よ。倦。と。あ。ら。よ。下。の。夫。の。衆。を。ま。て。西。渡。水。
依。し。か。を。慎。み。誠。を。竭。し。と。齊。肩。あ。り。と。教。諭。さ。る。園。花。の。お。づ。か。り。
さ。そ。の。年。稚。れ。より。母。が。夫。と。ま。え。ま。し。ひ。ひ。が。あ。ら。う。髪。も。肩。さ。か。り。



百何...

...



情を合く
園花
羊七
奇眉

赤根半七

...

...

よりの舟眉のそと。さううき手剛よけるべし。やその思ふく
生れく。彼処をゆふ。さゆひゆ。とりのく。さぬ浪のさもを。とらうう
目送りくる。かくて園花五條よ敷た。誓姻障るともあく。整ひつ。同房花燭
の景迹のくく。一。さううき。有れく。いかに。園花の稚れより。えり。さるれ
り。と。生れく。つた。一。さう。さのく。さ。と。さう。小誓言。一。頼夫。さう。う。年紀の二八
の春。さ。と。容止。と。艶妖。よ。むさ。ま。いと。怜物。く。り。え。又。平七。の。今。茲。一。才。み。て。
顔。之。の。端。麗。さ。る。る。梨。花。の。雲。も。敷。く。べ。く。文武。よ。宏。才。さ。る。る。竹。林。の
豚。も。も。る。べ。く。往。古。より。佳。人。の。才。子。よ。因。が。く。駿。馬。の。伯。樂。よ。遇。ぐ。じ。あ。ら。う
夫婦。の。實。子。天。縁。あり。と。さ。の。美。々。さ。い。か。一。と。さ。み。り。の。も。さ。り。赤。根。が
家。ま。の。帰。寧。旧。男。入。の。古。席。よ。日。教。授。さ。く。夫婦。さ。う。く。睦。く。く。え。え。一。さ。
典。信。の。敷。浪。も。う。ん。誓。を。擇。ぬ。た。り。と。さ。く。後。か。王。限。さ。り。さ。ぬ。浪。の。さ。り。

九條へゆくを。舟のしめ。とらう。う。世。の。中。の。親。ら。う。さ。う。あ。い。わ。ま。
う。う。平。七。の。父。の。命。よ。恃。ぐ。ぐ。と。此。度。誓。姻。い。な。れ。ど。さ。ん。が。生。死。を。ま。ま。
す。縦。駑。の。ま。の。控。る。とも。池。一。女子。の。志。を。後。さ。と。さ。い。く。さ。あ。れ。ば。さ。花
を。娶。て。も。た。え。さ。く。一。夕。も。い。ら。う。と。睡。ら。ど。さ。れ。ば。と。さ。く。又。強。面。氣。さ。い。い。ん。ど。ど
して。昼。の。珠。さ。ら。う。化。る。さ。く。相。語。ひ。や。さ。る。と。は。れ。席。が。障。る。さ。く。食。す。る。さ。く
折。布。取。さ。ら。う。と。睦。く。く。え。さ。る。ほ。ど。さ。く。さ。の。取。執。さ。ら。う。か。く。儲。け。さ。い。
さ。子。さ。く。ゆ。の。言。葉。の。似。と。園。花。と。眠。る。く。く。ら。あ。る。さ。く。の。さ。く。さ。く。さ。く。
の。幸。褔。さ。ら。う。の。じ。と。さ。く。い。ら。う。野。ね。よ。倭。姫。さ。く。子。の。新。婦。さ。く。さ。く。さ。く。
只。實。客。の。さ。く。さ。く。さ。く。さ。く。園。花。が。兄。曾。を。掃。も。さ。く。さ。く。一。奈。に。さ。く。さ。く。さ。く。
と。ま。と。と。交。参。と。さ。く。さ。く。一。夏。の。じ。く。さ。く。藩。中。の。諸。士。赤。根。親。子。を。海。さ。り。さ。く。さ。く。
知。り。さ。く。さ。く。平。七。の。い。と。さ。く。さ。く。さ。く。さ。く。さ。く。さ。く。さ。く。さ。く。さ。く。さ。く。さ。く。

西月記巻第十四

二二

を違ふとを逼るべし。父の命も殺し。又彼女は、恩義棄る。此の
女子は九才のたれ。荒蕪は、鶴まられ。存亡定り。とむ。小室く。年
志を轉さんり。不義なり。所詮。さうく。中。汝。娶。て。父の命を安く
夫婦の名の。を。枕席をと。ふ。さ。は。中。身。か。く。父。母。は。奈。ま。
一。旦。つ。妻。と。あ。る。と。も。さ。な。恩。の。未。通。女。と。な。り。さ。な。さ。
め。殺。ら。れ。珠。と。病。を。著。せ。さ。ん。の。と。と。あ。り。さ。を。死。の。所。に。お。り。し。り。
あ。い。浮。世。の。義。理。の。鮮。り。終。は。結。び。も。な。ら。ず。縁。と。も。い。言。ひ。さ。ら。し。
奈。良。の。歸。と。な。す。一。日。さ。あ。り。て。さ。な。か。又。一。日。あ。り。て。飽。も。あ。れ。も
さ。ぬ。を。雞。別。と。も。信。じ。一。生。傍。か。と。も。ら。せ。り。人。の。妻。と。あ。り。あ。り。し。
誰。と。い。は。れ。と。も。な。れ。ん。も。い。と。固。ま。れ。所。は。あ。れ。と。い。は。れ。た。め。恨。も。散。り。さ。
い。は。れ。と。い。は。す。も。外。へ。洩。さ。し。と。迎。う。寄。は。と。園。花。の。背。向。小。池。さ。

輾轉縁故

う。も。は。つ。か。身。あ。り。て。さ。な。ら。う。の。女。と。な。り。と。な。り。た。れ。が。秋。も。あ。り。さ。憂。は
鹿。の。奈。良。の。歸。ら。ん。と。も。な。す。も。夫。の。家。を。去。し。と。母。は。い。つ。つ。言。の。そ。め
の。露。も。さ。ら。乾。ぬ。と。の。間。は。飽。く。歸。り。と。り。な。れ。た。め。の。も。い。は。れ。し。
さ。ら。う。先。に。結。髪。し。人。の。生。死。成。る。ま。さ。ら。作。一。妻。の。取。替。る。と。も。い。は。ら。枕
の。睡。ら。と。誓。ひ。あ。ひ。し。の。信。を。羊。さ。身。不。棄。る。と。い。は。妻。側。室。に。果。る。と。
も。さ。ら。喜。し。り。つ。り。さ。ん。と。を。さ。ら。う。山。と。と。い。は。れ。た。所。は。あ。り。し。の。ま。い。ら。
情。ど。う。の。慈。悲。を。う。横。の。裾。の。外。に。あ。る。後。方。は。夜。を。あ。ら。う。人。め。を
つ。り。妻。と。い。は。れ。夫。と。い。は。れ。と。あ。ら。れ。う。お。り。あ。ら。う。尼。法。師。と。な。ら。せ。り。の。ま。
粹。ら。う。さ。ら。う。宿。の。茶。山。子。と。蘭。と。い。は。れ。と。い。は。れ。う。後。女。見。し。り。
後。と。細。を。嚙。齧。締。る。亮。隔。越。は。敷。浪。か。若。く。は。義。理。と。恩。愛。は。現。日。と

Handwritten text at the top of the right page, likely bleed-through from the reverse side.

守傳にまねとの仰るほどと申えあつたればませり頭を低唯ううと
命を稟ま六又後浪は對しつゆとあふぐとくうれいも一とまませり
秋の季もつる落よあるべし姑はあつたつが死よ弱れ女子をびりり在り
いとむらう。母のこよまやうとまよめれりふらうの園花を奈良一伴
いよ羊七がめつとて。預てとていんやとて。數浪は今ほのよよす
もあれづら便みととて。女児をこよあつとて。いよむらうなりれ
まよらと應てとて。さうとて。いよむらうなりれとて。め
あつて。いよ早。ま七が鹿島を目送らうとて。奈良一伴。園花
まよらぬとて。いよむらうとて。女児のとて。いよむらうとて。いよむらう
まよらぬとて。四五日のら。吉稚華落し。管のぬら。羊七の園花は別を
告げと。男。姑よ身の暇をまじつ。同僚布。迄今市。ホ。り。つ。も。小。ま

Handwritten text at the top of the left page, likely bleed-through from the reverse side.

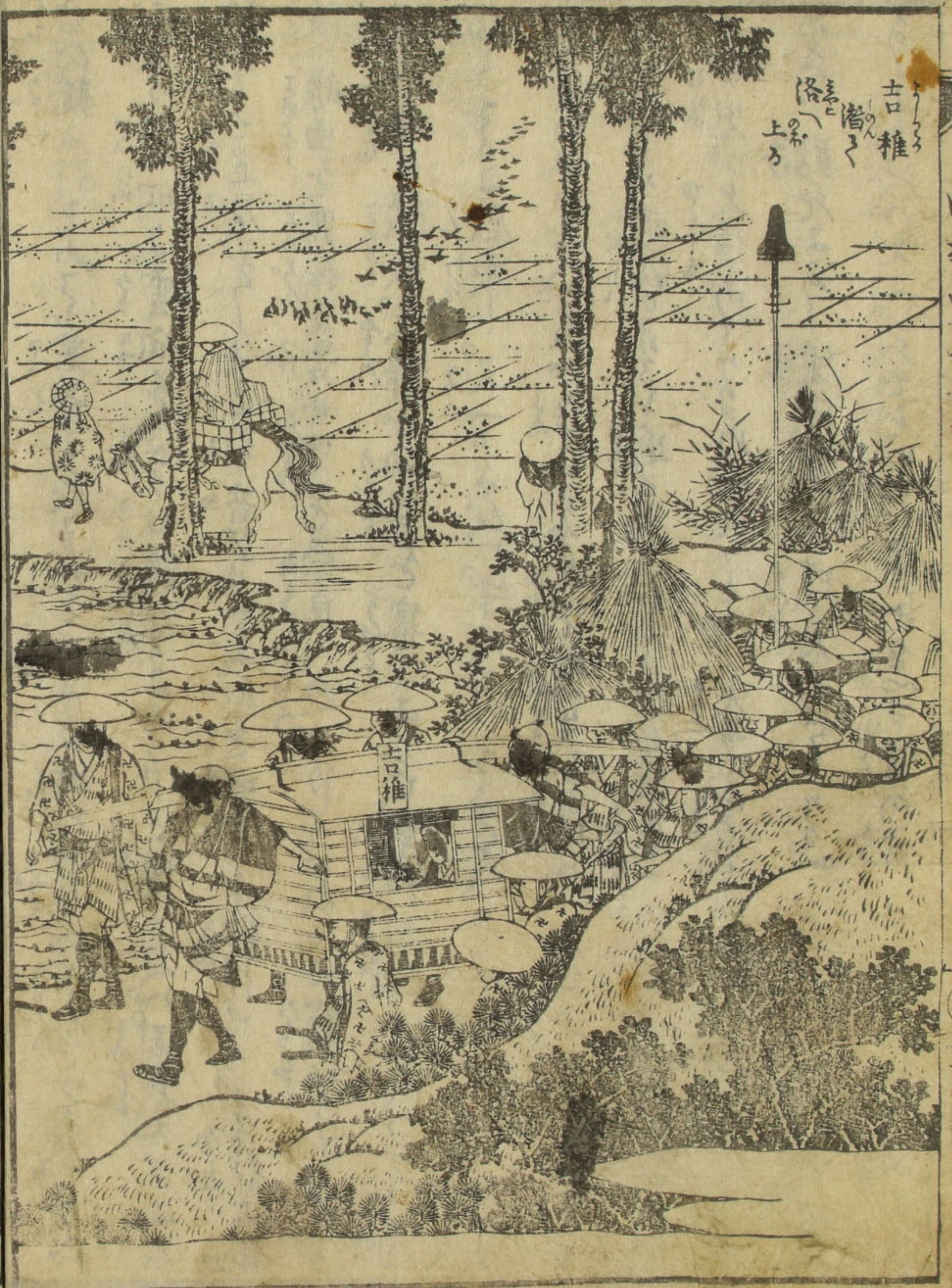
君の轡は引とあつ。若葉うたれぬ交り。時の四月の中旬まで。目も
らるる物。明よ。雲間をこら。杜鵑啼り。うらと鳴とら。園花が身よ
いあつて。名。残を。一と。本。意。あ。つ。血。を。吐。き。り。歎。死。つ。う。さ。ら。行。よ。あ
浪の縁由を典孫よ告。女児を奈良一迎とり。日。竊。女。一。と。羊。七。が
義を守。縁故。夫婦が回答を審よとて。怒。死。憂。一。と。び。り。その。世。の
ゆら。つ。る。感。激。一。又。一。と。び。り。ま。六。が。か。つ。る。み。さ。が。う。一。匿。と。て。年。未。ま
ま。ま。よ。ひ。ら。ら。う。れ。が。た。つ。ま。が。女。児。の。一。生。を。快。く。と。ら。め。よ。腹。た。し。ま。も
い。や。さ。せ。り。が。威。勢。か。り。く。追。つ。と。も。お。あ。つ。ね。月。の。男。女。の。中。あ。つ。よ。初。心。よ。い。ひ。ひ
く。女。児。が。久。後。あ。り。り。ね。づ。れ。う。と。く。夫。も。ゆ。え。え。ち。う。と。ぐ。園。花。も。回。り
あ。ま。ト。歎。死。よ。り。一。采。の。さ。つ。く。嘆。息。と。り。り。り。の。ま。一。ね。と。園。花。の。形。は
あ。つ。と。も。り。が。え。よ。ら。つ。と。ど。り。つ。身。と。ま。い。り。の。強。し。と。が。れ。つ。く。六。月。の。ま

Handwritten text at the top of the right page, likely a title or chapter heading, written in a cursive style.

西河集卷之三



赤根羊七



吉推
洛上

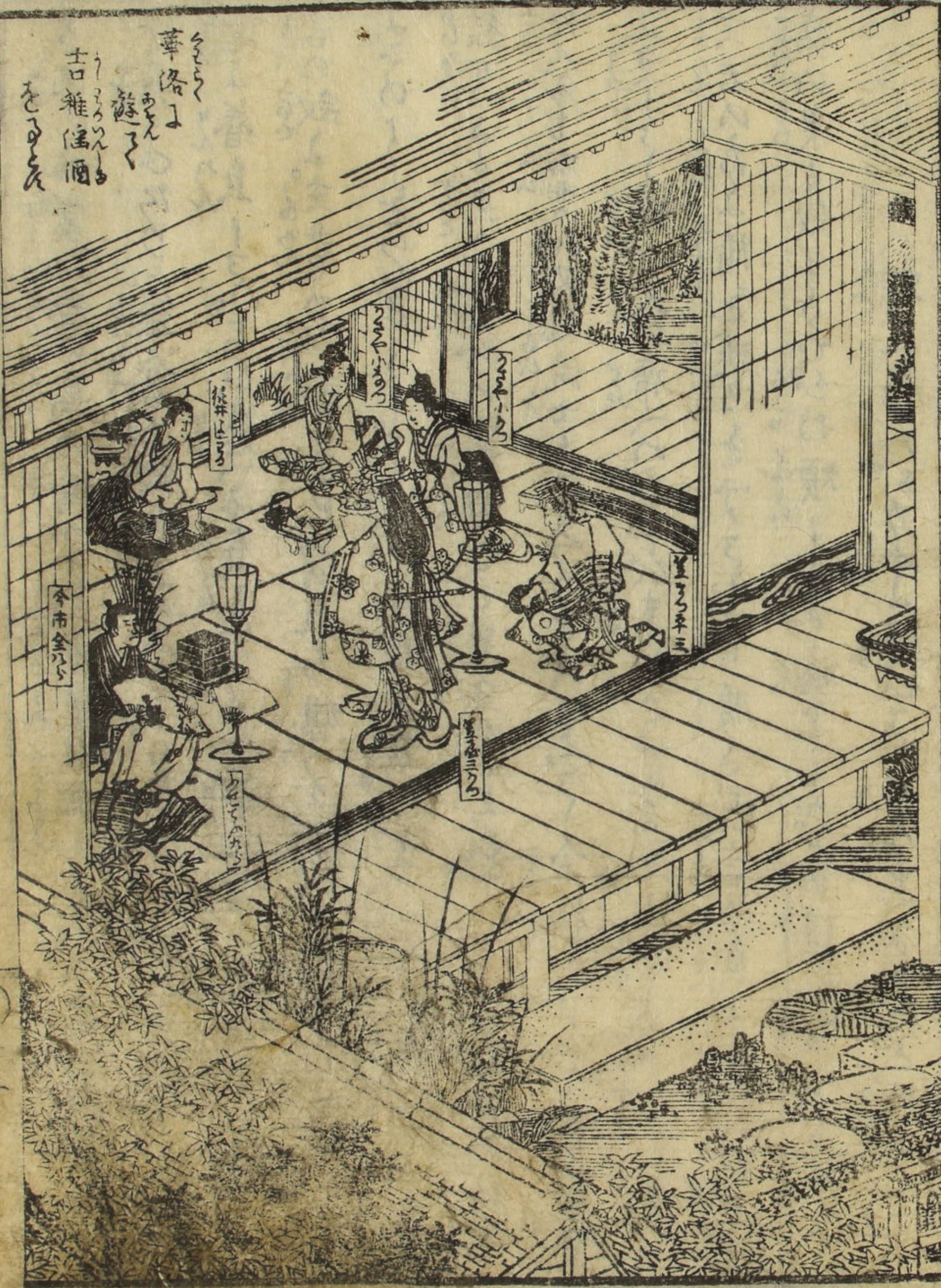
吉推

うらむ持あしとく并外う。さればとく終日財とよもあつて。父母のこれが
乃よ。茶竹られのゆ。さよとくひは。場せども。想より病ふく。か。醫師もと
んじぶあ。後まの常の事とありて。一日の起。一日の外。顔のほろり。もれよ
とひぬ。是は。いさそあれたすて。ハ。帝君を守傳う。洛よ上。洛東。祇園の
社頭。ある。人の。別業を。購ひ。く。さよ。僑居。さ。進ら。じ。焼井家の。郎君
ある。い。さ。さ。あり。近臣の名。さ。隠。く。行某。彼某と。稱。く。く。日。未。大。和
交加。さ。る。商人。さ。く。これ。を。あ。る。の。あ。り。け。さ。ぐ。て。吉。稚。ハ。三。人。の。近。臣
と。お。く。下。郎。本。轡。を。お。ら。し。割。籠。を。り。く。洛。中。洛。外。の。神。社。佛。閣。名。処
古。蹟。を。お。覽。し。む。ろ。れ。す。よ。日。を。あ。ら。う。移。よ。病。あ。り。果。が。持。傳。く。た
く。あり。て。生。平。く。り。も。健。く。又。奈。良。よ。り。日。み。く。飛。御。玉。味。て。起。居。を。尋。向
と。その。と。く。一。園。花。ハ。病。を。推。く。書。翰。の。寫。め。果。よ。乾。軒。す。の。り。の。と。

半七は贈り。又。愛。浪。も。女。児。が。書。翰。よ。巻。と。え。く。消。息。し。衣。服。何。ら。ま。の
る。愛。く。よ。ま。う。と。直。よ。と。う。く。一。つ。え。ま。く。多。く。洛。の。隣。の。園。な。れ。ど。旅
く。る。れ。バ。自。在。さ。く。さ。る。み。あ。は。う。え。し。竹。頃。帰。り。あ。り。ん。女。児。ハ。日。数。の。ま
僕。つ。さ。ま。の。空。を。瞻。望。く。く。け。ら。さ。と。い。く。可。憐。よ。い。け。り。う。ま。ま。せ。も
西陣の織物。城。殿。の。扇。ま。と。を。贈。り。遣。く。く。それ。が。報。く。ん。も。し。う。先。有。り
金。二。兩。を。夫。と。典。借。が。児。子。蟻。取。曾。を。郎。と。互。代。よ。洛。よ。上。ま。て。吉。稚。の。女
否。を。同。又。所。用。を。兼。さ。く。帰。り。く。吉。稚。病。愈。て。の。後。ハ。う。ら。む。を。半。七
よ。ら。ち。任。し。く。請。来。る。も。稀。あ。り。よ。ま。せ。て。七。月。の。中。旬。よ。ま。ま。く。病。は
寒。熱。し。假。初。の。病。取。く。く。遂。に。瘡。疾。と。さ。り。く。日。を。控。れ。も。病。起。む。く。く
も。あ。り。の。僑。居。よ。主。君。の。ほ。ろ。り。近。く。病。取。く。く。あ。り。ん。ハ。畏。し。と。あ。り。ひ。く
今。市。布。施。よ。相。請。ひ。吉。稚。よ。い。え。あ。げ。く。別。よ。立。條。さ。り。あ。る。小。菖。を

借る。その身一人の奴隷を俱く。其外は引移して保親と。その今
 市布能ホ吉稚は密語をうてて病煩ふ。奈良は言ひ
 せよ。老臣ホむかきと。別入をせむ。彼は代もあつてその人
 の。君のいさうは稱ぬ。のどもつてあつた。その風景を殺しゆん
 瘡病のたう。三七日を限ては愈るといふ。思ひく。その奈良は
 ても。某ホ二人かくてあれ。竹の障りゆた。と信じて。うらやまを吉稚
 づく。ちうまうと。終つて。奈良は。せむ。せむ。せむ。と。うら
 せむ。せむ。せむ。と。又い。く。日。も。あ。つ。て。愈。べ。死。よ。告。げ。と。父。も。妻。も。も。
 物をとり。あつ。と。と。等。宗。小。ま。う。り。ひ。も。つ。つ。と。れ。ど。全。八。蝶。九。郎。
 今市。八。郎。布。能。蝶。九。郎。の。兩。人。の。続。井。譜。代。の。郎。當。つ。れ。と。も。

むま羊七よん。う。う。と。あり。つ。實。は。奈。良。坂。の。児。と。憎。む。候。人。
 あり。彼。ホ。上。よ。父。母。あり。下。よ。妻。子。と。あり。其。言。を。巧。う。と。君。を。欺。死。
 炮。を。媚。く。傷。難。と。と。あり。夫。信。言。の。美。言。は。美。言。の。信。言。は。宣。
 う。傍。言。の。耳。と。密。の。と。吉。稚。丸。は。年。少。軟。弱。の。公。子。と。も。
 と。れ。を。慮。ら。ど。彼。兩。人。を。籠。と。二。ま。れ。り。の。と。り。因。り。此。度。の。從。者。小。
 も。擇。と。し。却。す。て。を。り。が。り。と。り。氣。と。あり。す。て。猛。と。つ。ら。と。り。九。
 條。の。旅。宿。よ。退。れ。と。う。全。八。蝶。九。郎。の。隙。を。ゆ。く。吉。稚。は。捉。魚。を。
 す。め。の。あ。の。れ。と。身。の。樂。より。と。刺。の。と。り。落。よ。り。と。り。室。と。り。
 夏。女。見。の。小。夏。第。子。の。三。勝。と。り。夥。と。り。集。合。と。り。晝。夜。酒。宴。と。り。
 三。勝。の。三。勝。の。花。の。中。あ。る。花。と。り。と。り。笑。べ。城。を。傾。る。の。美。人。と。り。
 それ。が。交。舞。と。形。容。の。い。ま。の。妓。王。と。り。も。勝。る。べ。く。怒。を。合。と。り。と。り。



華洛下
遊く
吉雅偏酒
をりて

今市金

三ノ



五ノ

今彼を牙贖ししむ。郎君は進みたる世のすえを悼まふ大和へ
 へおきつらぐ。その用をた時よまじあり。夫が妻とせんゆへ。今も
 か程あり。川辺えんを助る。その件の子未結せ。昨日奈良へいひつる
 志る用金のとるその懐へ挟み取りあともまじ。途中あど埋伏
 して。彼女子が奪ひしうん。誰うが何のふるとあうん。あどがれが牙
 價をさうとるみ及ぶ。や平三これを曉ゆる。女児をさう復さんと
 聞し。這奴を引出す。警教えんいと易いと信づら。密語
 小が蝶丸郎たふ教ぶ。一強も及ぶ。かまがれん黄金をる。以て
 又美人を得ん。いづれも考て捕らう。又謀定く妙くといふ。浪平は
 走平めたる男。忙しく走りあう。平三が家へ門め。且官領暗え
 朝臣のせえ使あり。今夜猛。賓の来をせらあり。うらう三捕とせせと

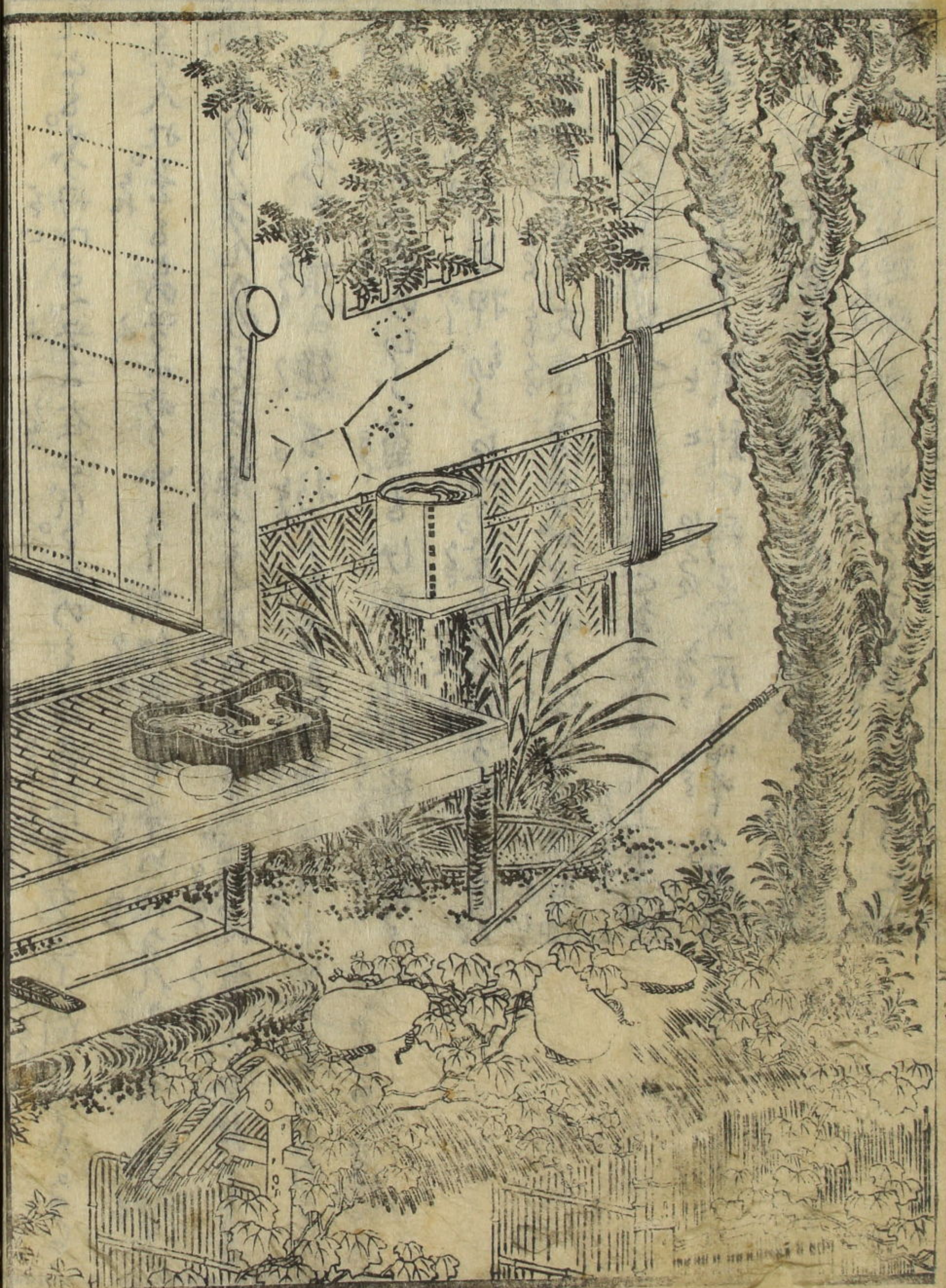
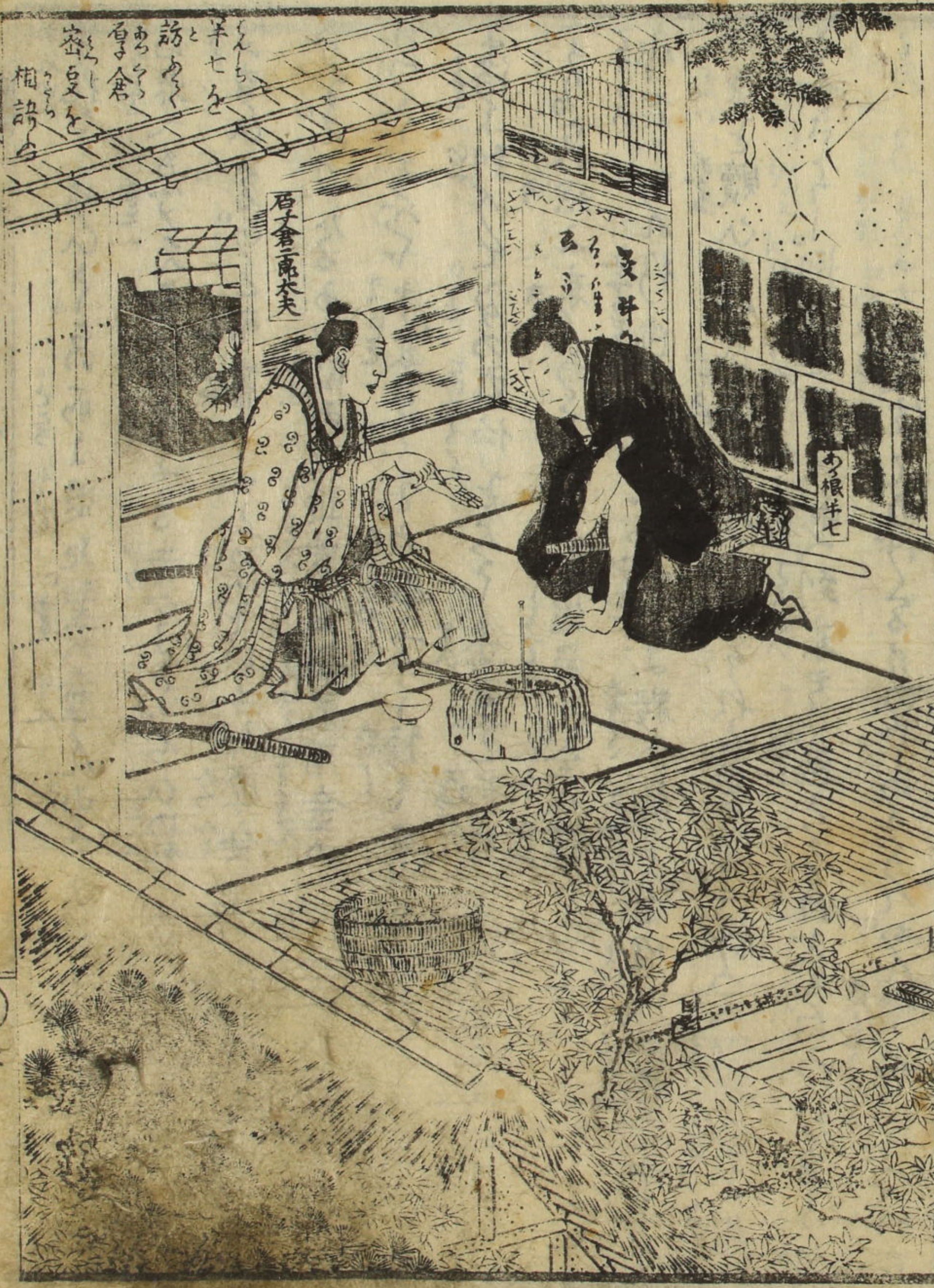
宣はしとど。黄昏る。頃迎の轎を本とくれば。その准備し。物を
 し。果く。又忙しく走りあう。浪平は蝶丸郎に密語。物蔭し。お
 出矢度。彼男が頂髪と搔。引くせ。走平は又驚馬。是れ一
 けんせ。あんど。吠をい。締るよ。又と同格。暗をさう。さあ
 忽地。息絶。そのとを蝶丸郎もさう。出く。彼男が衣服袴を
 剥と。二人とく。屍をほ。近き。薫の中。投入。あく。眼し
 後。あんど。迹をぬ。そのと。平三の官領家。うら。さあ。いん
 とも。三捕が子舎あり。往來の人。え。絶。折。あ。あ。あ
 あり。し。と。

夜轎の驟雨

さても赤根津七八。立待の旅宿あり。病と三十日あり。頃日

全八條九郎が。君は此奥をさくらめま。殿の舞子を呼び集令
 ろう。大に驚た。これを練人とする。氣力がころころ。八月
 と名入よりせ。頼ふもの。焦燥つ。いづつ。小日を。八月
 中。白小至る。や。おこころ。果ね。翌。つとめ。髪と。撫。し。襖。の。旅
 館。よ。あり。つ。の。為。体。と。え。や。と。つ。その。准。休。成。り。す。く。大。和
 へ。音。耗。を。せ。ざ。ん。ば。と。く。の。あ。旦。奴。隸。を。奈。良。へ。つ。ハ。セ。が。け。と。く。く
 云。察。敵。も。た。宿。の。む。と。く。後。然。は。堪。ど。い。く。未。お。く。を。を。ひ。つ。け。せ。
 ふ。圖。様。は。知。る。護。身。囊。と。え。え。り。の。む。と。く。さ。し。く。り。や。う。さ。ん。か
 護。身。は。け。る。所。だ。く。一。冊。の。送。る。も。く。を。護。身。囊。と。送。代。の。あ。つ。る。が。
 お。り。か。つ。れ。も。ま。は。似。う。の。ま。い。と。た。冊。の。宜。い。一。冊。が。成。長。の。後。格。へ。上。る
 る。あ。し。バ。あ。さん。が。冊。を。索。ふ。と。ま。え。ぬ。い。一。冊。の。紫。は。る。浮。耳。底。に。た。

れども。が。母。の。ま。ま。は。在。る。だ。の。の。近。届。格。は。あ。ら。う。と。同。く。も。う。た
 そ。の。人。は。ま。ま。の。ま。ま。は。あ。り。や。う。や。う。の。紀。念。を。今。の。代。に。な。さ。す。く。忘。つ。て
 隙。と。あ。り。ま。ん。の。の。を。さ。す。難。が。う。く。次。々。り。あ。ら。う。護。身。囊。と。学。び。て。う。ま
 り。く。ま。う。く。頂。は。徳。る。お。も。あ。ら。う。外。面。は。咬。し。く。ま。る。人。の。あ。ら。う。
 令。の。得。あ。ら。度。の。む。く。菊。も。け。あ。ら。う。野。袴。の。裾。あ。ら。夕。あ。の。玉。を。持
 し。法。折。戸。と。押。お。う。た。つ。笠。を。脱。捨。る。を。え。い。ま。が。ん。別。人。の。あ。ら。う。ぞ。
 厚。倉。二。郎。大。夫。友。春。の。け。く。半。七。の。端。ち。う。う。出。迎。へ。と。う。厚。倉。氏。は
 ぬ。の。の。り。く。坊。の。あ。ら。う。ん。ま。づ。さ。ら。う。と。う。上。座。に。請。ま。れ。ば。厚。倉。氏
 ひ。ま。し。く。り。や。う。其。許。の。病。ま。ら。は。な。ま。り。が。あ。ら。う。顔。色。も
 今。ハ。い。ち。平。愈。し。あ。ら。う。ん。と。い。ふ。ま。ま。七。答。す。其。あ。ら。う。思。ひ。や
 癩。病。も。く。起。居。も。自。在。さ。う。ぞ。君。の。ほ。ろ。う。ら。う。く。ち。臥。て。あ。ら。う。ん。



あれ年を終へ。その便宜をえあり。世の忠義ハ二帝を夫が命より
くやえあげ。めぐる。めまら。えん。うぬめ。と説ふ。まてあ
く感激し。その謀利ひ易し。只うけがたへ。彼等くを奪ひ。一日
とも。知つ。住ま。真の不肖。似く。懐く。以。是。丈夫の志。不
不便。あ。あ。教。これ。又。遙。ふ。の。地。を。ま。自。教。ま。法。の。患。の。疾
皆。ま。の。の。あ。の。れ。ど。罪。ま。女子。以。教。し。ま。ま。七。が。命。を。掲。る。彼
女子の親族も。恨る。う。ま。あ。う。ど。し。ひ。も。果。ね。よ。厚。倉。ハ。改。を。在。た
ふ。ち。掉。く。赤。根。氏。の。言。違。へ。彼。も。又。人。の。子。を。ま。ま。む。ん。は。教。を
べ。の。め。く。は。これ。は。倅。外。さ。不便。を。え。え。く。負。く。と。も。の。ろ。と。も。み
世。を。渡。し。あ。ま。あ。預。ま。う。ぬ。三。勝。親。子。を。引。放。憂。を。え。と。罪。障。を
贖。ん。と。ま。士。の。不。為。ま。ま。れ。又。方。便。を。め。く。て。彼。が。牙。價。を。え

あ。う。年。三。と。中。う。ん。よ。う。う。と。一。血。氣。よ。乗。し。く。人。を。教。し。身。を
失。ひ。あ。ま。と。理。を。述。く。ま。あ。且。ど。も。ま。七。を。ら。ひ。引。ど。い。に
と。あ。ひ。し。が。う。う。よ。至。く。己。と。あ。ぬ。ど。ま。ら。く。昔。く。う。を。ま
く。さ。ら。と。と。察。し。ぬ。く。某。稚。り。時。結。号。ま。う。ぬ。女子。あり。その
名。を。ば。あ。ん。と。ま。び。う。が。又。あ。の。再。生。の。恩。あ。り。の。こ。不。幸。ま。ま
九。之。の。名。ゆ。へ。と。ま。ま。ど。ま。り。一。う。り。今。よ。存。亡。定。う。ま。ま。ま。れ
む。近。曾。園。花。を。娶。り。し。み。え。来。り。が。情。願。よ。あ。う。ど。ま。ま。く。え。よ
遍。く。ま。ま。その。命。よ。情。願。く。彼。園。花。を。娶。る。と。く。い。ま。ま。ま
枕。席。を。共。よ。ま。ま。ま。あ。ん。が。恩。を。あ。り。し。あ。り。ま。ま。ま。ま
舞。の。三。勝。と。ま。ま。ん。を。伴。り。所謂。五。十。歳。百。歳。の。ま。ま。ま。ま。ま
あ。う。う。ま。ま。の。志。が。轉。じ。ま。ま。あ。う。ま。ま。ま。ま。一。生。の。お。り。ま。ま

めとあはされ。若しいりて便なれ。又は六が久後を。たはあし
 なる。とまを膝よ。並忠孝を神。も仏も憐れ。端あり。奪ひこ
 め。人三勝ハ結号。せ。あえんこと。あひも。うけ。せ。彩ん。と。り。よ。と。あ。う。れ
 厚倉を縁故を。せ。う。ハ。煉ん。や。も。ま。く。比。結。う。り。壯。士。に。濡。衣
 を。被。せ。命。さ。く。慣。さ。さ。る。う。と。を。う。り。よ。湯。う。ら。う。と。り。入。と。は。扱。の
 畧の短く。鶏も。埒。入。相。の。祇。園。精。舎。の。鐘。の。声。を。う。り。耳。の
 あり。な。り。既。よ。時。刻。ふ。り。ぬ。と。く。厚。倉。を。ま。り。坐。を。立。つ。せ。せ。を
 え。う。り。う。り。ど。れ。い。と。や。退。る。こ。ま。う。と。ま。む。よ。め。り。ね。ど。も。捷。り。さ。る
 損。一。あ。ふ。ま。と。り。か。ま。せ。覚。悟。と。し。く。を。易。く。あ。ひ。あ。へ。甲。夜。り
 徹。心。を。神。御。し。潜。う。う。く。奪。ひ。ま。り。の。一。家。の。あ。う。と。は。う。り。あ。り
 貨。中。に。埋。込。し。う。り。と。あ。の。夜。を。う。り。づ。う。よ。あ。う。り。の。せ。と。ス。同。暮。ハ

月の天の定や。あ。や。り。曇。る。雨。催。ひ。あ。げ。た。月。の。出。や。ね。ど。客。と。主
 が。影。二。ツ。磨。あ。げ。る。武。士。の。と。れ。や。鏡。と。り。ひ。つ。べ。い。の。日。今。市。全。八。郎
 布。は。蝶。九。郎。の。既。よ。襟。を。定。め。り。管。領。家。の。ま。卒。を。繼。侍。し。直。よ
 り。の。爪。を。ま。り。ま。り。く。日。本。総。り。る。於。呂。世。の。精。夫。足。平。脚。卒。と
 り。思。根。よ。命。を。ま。り。く。これ。を。相。持。ひ。日。の。暮。う。と。ま。う。ち。う。く。蝶。九。郎
 ハ。利。と。り。衣。服。袴。を。被。り。侍。の。ま。卒。を。打。扮。二。人。の。思。根。と。橋。を
 跨。り。し。く。笠。松。が。家。に。到。り。管。領。家。の。迎。え。り。さ。く。く。ま。り。め。り。と
 り。入。り。の。と。れ。卒。三。ハ。真。葛。原。に。越。え。り。ゆ。ま。ご。め。り。あ。う。ね。ど。丹。ご。り
 る。た。あ。ん。が。う。り。迎。の。橋。さ。く。め。り。う。り。を。し。り。ま。ご。り。ね。ど。又。の
 ぬ。り。あ。ふ。よ。ね。も。あ。り。ト。ら。う。三。勝。ハ。夕。同。暮。の。分。忙。し。さ。る。蝶。九。郎
 こ。も。あ。り。と。會。釈。志。と。外。面。に。立。出。門。の。戸。鎖。し。く。捷。さ。が。憐。れ。る



家よりくゆた。如此くあくる来るる。今もあまた父の入りぬら。
舞の衣裳の跡よりりりりいぬ。と言告めいしてよ。と挑め
聴く橋よ來接るを。後もあつて足平脚平。ゆる肩入して
禮物。只み信くまをまば。控九郎の嚮より物蔭よ三徳
らる。全八と面をあり。僕俵と。と私結ぬ。橋よ引まいる
折しも。半七の中。三勝が家を尋當とえま門の鎖しより。
隣なる家よ立ちりり。それがゆるぬる方を向。主人東の行
を指し。鼻ゆみ三猪の目。今人よ招きく。ゆいりりなり
ぬれえぬ。彼亦へゆく挑灯をも。彼がさる橋つれ。とせもあ
ど。まて信とえ入りつ。それやつつ。としひりり。花がさくよ追
蒐り。あつる。幾よ。平三の。日管領のま車がなり。後猛よ

真葛が糸へかくべんみ出まき。申下越り其如く妙れ。おのほり
時をうらり。程よ。今もや。三勝が後家へさる。比及まらんとき。
只顧よころ鳥燥。昏るを喘ぬ。三条河原を走りぬ。河原
を東へつがする橋の内より。半垂る。振袖を挑灯の火光よれば。桶
大の字の物箱して。紛ふもあつね。三勝ありある不審。さるつれ
橋夫とまか。の体も。竹とやん怪しれよ。引添る走車。の登え。衣服
を解れど。その人よいぬ。今一人。も拭り。面を裏たる。武士の向よ
勝ヶ牙。償んと。まが。家よ。来たれ。入よ。似れ。夫度よ。橋の指端
廻る。二あ。三あ。押戻し。あつる。女児を。竹地へ。おて。つれ。と。橋の
四人り。ともよ。勢と。ど。か。女も。さ。さ。さ。さ。向き。を。ま。管領。家
さ。さ。れ。と。叱。退。去。ら。ん。と。す。代。年。三。つ。は。ま。あ。さ。り

く。一歩も運ばぬ管領へ召さるるうら。あつた路こそ違ふらん。ゆゑ御ま
り。とてべしとのひもあはれ。取らる持端引めうらま。蝶九郎ホ大は奴も。
この過言あり狼藉。這奴息の根。とめらと圃ま。轎夫とも轎
居。打さるる息杖を平三内とつるの溜。右と左一打らり。つら
入り。足平が息杖を奪ひとり。諸膝薙ろ雄多る。小備一撲
と打倒し。這あつらんとするところを。あつた打杖。眉間四五才打割
は。泥塗をさく。尻より。流るる脚平の胸さうらう。突破られ。あ
と叫ぶ。竹を撞む今市。駭死うらう。声をもうらう。技打。切らんとす
る刃の光。平三にや。刃及て。息杖をり。受とめ。追へ。うらう。破む
ま。折しも降来る。驟雨。蹴揚の泥の赤。落葉。つとも。烈ん。た。刀
風。蝶九郎。その隙。橋の蓮。掻揚。三巻を。い。ち。て。試す

は。り。と。さ。さ。く。有。り。い。へ。逃。ん。と。す。ま。り。ま。せ。七。も。う。ら。う。三。巻。を。と。り
知。小。追。ぎ。来。り。い。が。岸。の。柳。よ。本。か。ら。れ。う。う。の。容。子。の。う。ら。う。さ。さ
つ。吐。息。と。忽。ち。跳。り。出。さ。く。べ。れ。前。ま。ま。う。り。け。る。蝶。九。郎。の。う。ら。う。も。あ。り
ま。せ。七。り。遮。留。ら。れ。う。ら。の。中。大。は。眺。眺。と。も。脱。さ。と。と。い。い。う。ら。う
こ。う。を。ゆ。い。と。三。巻。を。う。ら。捨。て。打。さ。る。刃。の。下。へ。ま。せ。七。の。握。固
拳。を。下。と。衝。か。せ。が。う。ら。う。膝。を。う。ら。う。打。し。眼。瞠。と。う。ら。う。刀。を。捨。て
居。よ。撞。と。倒。る。を。羊。せ。り。え。向。ち。て。人。多。う。ら。う。三。巻。を。腋。下。小
楚。と。扛。抱。け。何。急。に。添。ろ。走。ま。り。う。平。三。も。全。八。の。景。遠。の。景。い
脱。送。よ。呆。れ。う。打。も。あ。れ。ど。双。方。一。度。よ。引。ま。れ。久。せ。度。ら。と。叫。ぶ。う。ら。う
あ。り。う。ら。う。蝶。九。郎。の。耳。よ。う。り。う。ら。う。身。が。ひ。う。ら。う。起。あ。り。仇。も。身。も
玉。録。の。路。う。ら。う。暗。り。ん。彼。此。を。索。め。う。ら。う。と。も。う。ら。う。の



九
勇を奮と
今市
戦人

安松平三

雲
母
甲



三
勝
小
義
右

今市
全
公
郎

今市
全
公
郎

今市
全
公
郎

仙
山口
琴



五
矢
唯
正

浪
意
書
行
終
市

多
多
河
上
共
り
あ
り
よ
う
な
り

少
少
の
う
ま
い

清
り
な
り
な
り
な
り

江
の
な
り
な
り

三七全傳南柯夢

波
谷
ん
な
り
な
り

徐太師記

四編

七

